

聞新今日京東

九百三十三号

か敷息
ふふふふ

溫克堂龍吟記

べからばと 侍乳山藝

同人の只短刀を突に殺し、
 掛ごとをあん太を揚さので、而親を驚てあん太傍へ行て見て、
 行燈の消て直黒暗あん太からぬくら火を燈して見ると、離縁一の簀殿が
 匕首を持て立て居てあん太血をうけて死て居る故、仰天し西隣へ知らせ、
 知らせたら河野某と言ふ巡査が直駈附けて召捕が何せ入殺さ
 たら打首が多うなる誠と、却愚人の困り升も其愚より及ぶ

ハ兎角無法斗々言ふ故つゝ金子を遣て離縁して其事を扱所へも届事漸々ありと如何心得違々二月十一日の

本郷三丁目の飯島安五郎とト人の養女あちんと言ふが元の夫妻三郎は殺されさうと一體此三郎と言ふ常州真壁郡市野辺村の白沢兵衛と人の二男で經師職するをたまに賀は貫三郎が我意者で養

父母の教訓を少くも聴け夫故平日家内が不穩て夫婦中由

不熟度々媒灼^{さうしやく}と人々立入て異見^{いけん}して濟^さし事也

兔角無法斗、言ふ故つゝ金子を遣て離縁して其事

蕙齋
芳幾



吳足屋

渡辺彫榮